

令和元年度南予地方局予算の実施状況（R2. 2. 29 現在）

- 1 予算事項名 食用ホオズキの郷づくり事業費
 2 事業期間 平成 29 年度～令和元年度
 3 所 管 産業経済部産業振興課地域農業育成室
 4 事業概要

鬼北地域では、「鬼」にちなんだ食用ホオズキの栽培が試みられ、いやしの南予博での PR イベントも好評であったが、地域に合った品種や栽培技術が確立されておらず、消費者の認知度も低い。

そこで、振興組織を立ち上げ活動した結果、地域に合った品種が選定され、地元への食用ホオズキ認知度も徐々に上がってきたものの、難防除害虫の防除方法や収量の上がる栽培方法の確立など、技術的な支援が必要である。

このため、更なる技術実証を通して、食用ホオズキの増産と品質向上を図るとともに、県内・県外での認知度向上を図りながら、契約販売に向けた商談活動も継続し、農業経営の補完や地域活性化に寄与する新たな地域特産品として育成し、地域の活性化を図る。

	令和元年度
予算額	443 千円

5 事業内容

(1) 食用ホオズキ推進協議会（予算額 198 千円）

①協議会の開催

推進方針や独自支援策等の実施状況や実証圃試験状況について情報交換した。
 構成メンバー（食用ホオズキ生産者代表、松野町、鬼北町、JA えひめ南、南予地方局担当者）

○第 1 回

実施日及び実施場所	内 容
7 月 11 日 鬼北農業指導班 会議室及び現地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30 年度活動実績及び元年度活動計画について ・ 成分分析結果報告及び関西圏販促活動の結果について ・ 生産者及び各関係機関との意見交換 ・ 実証圃展示視察（3ヶ所）



○第 2 回 3 月 12 日開催予定であったが、新型コロナウイルスの関係で中止。

②マーケティング（営業）活動

大阪・神戸の飲食店（3 店舗）に対して生食と冷凍サンプルを持ち込み、取り扱いについて検討予定（R 元. 3 月 4 日～5 日）。

③情報集活動

ホオズキ生産者による定例会を月 1 回開催し、栽培状況報告及び販売方法等について情報交換。

(2) 食用ホオズキ栽培技術実証（予算額 167 千円）

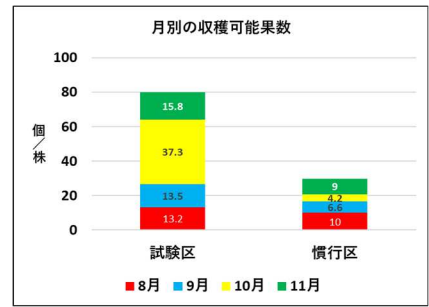
①食用ホオズキ栽培実証

技術実証圃として、（a）露地栽培における 1 条 V 字型整枝法、（b）雨よけハウスによる 1 文字型整枝法と吊り下げ誘引整枝法、（c）防虫ネットを使用した難防除害虫防除実証、（d）促成栽培実証の 4 つの実証圃を設置し、収量、品質調査など行った。

(a) 露地栽培では 1 条 V 字型整枝法が慣行区に比べ、開花数及び着果数ともに増加し、2.7 倍の収量増となった。



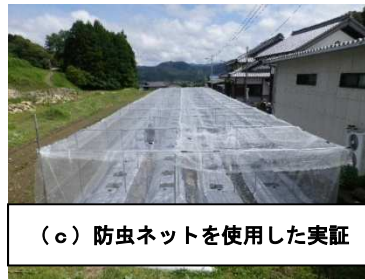
(a) 1 条 V 字型整枝法



(b) 雨よけハウスでは、吊り下げ誘引整枝法が 1.9 倍の収量増となった。



(b) 吊り下げ誘引整枝法



(c) 防虫ネットを使用した実証

(c) 難防虫害虫 (タバコガ類) に対して、防虫ネットは 100%被害を抑えることがわかった。



(d) 促成栽培実証では、病害虫の発生もほとんどなく、2/20 から順調に生産が始まっている。



(d) 促成栽培実証



実証圃結果から誘引方法の改善とハウス栽培面積の拡大が図られ生産量は目標を大幅に上回る予定である。

②栽培マニュアルの見直し

実証圃の実証結果等に基づき栽培マニュアルの見直しを行う予定 (3 月頃作成)

(3) 食用ホオズキ広報・加工事業 (予算額 78 千円)

①広報活動支援

- ・ 地元小学校へのプランター苗配布

食用ホオズキを知ってもらうため、鬼北地域の小学校 7 校と産直施設 (2 ヶ所) に、プランター苗を配布し、期間中に収穫できたホオズキを小学生や教員が試食するとともに、施設来場者に食用ホオズキを PR し、認知度も向上した。

- ・ 鬼灯まつり、地元産業まつりへの出店

地域への食用ホオズキ PR 活動としてホオズキ生産者グループ (オグリファム合同会社) が「鬼灯まつり」を産直施設「森の三角ぼうし」で開催し、ホオズキや加工品を販売した。



②加工品開発

・ ホオズキ生産者グループ (オグリファム合同会社) と連携し、ドライフルーツ、ジャムといった加工品を開発。

ドライフルーツは関西方面の営業活動 (3 月 4~5 日) に使用予定。

